

新聞名	日経	朝日	毎日	読売	静岡	中日	その他
掲載日	2/21				朝刊	夕刊	27 ページ

(27) 静岡新聞 平成30年(2018年)2月21日(水曜日) 第3種郵便物認可

興味深い生活の「争点」

鎌田委員

候補の本音引き出して

内山委員

当選後も経常的記事

伊東委員

衆院選報道

静岡新聞社第26回「読者と報道委員会」

条例自体の評価も必要

鎌田委員

議論喚起した新聞の力

内山委員

ゴール見据えた議論を

伊東委員

県製茶指導取締条例廃止方針を巡る報道

議院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

衆院選報道

約1カ月の短期決戦では、野党の離合集散に注目が集まりました。県内各選挙区の構図も流動的で、政策議論の深まりを欠く中、人口減や防災、子育て支援など問われるべき課題をさまざまに切り口に報じました。

伊東委員 今回の衆院選に際しては「1970年代の時期に解散する」という見解を述べています。

内山委員 「国難突破」を掲げた衆院選。企業では新聞社側が各選挙区の課題を示し、候補者の見解を添えていた。取

分らないまま選挙が終わり、そのなかで地域の課題を探し出し、争点として取り上げる力は素晴らしい。有権者にとっても問題意識を喚起する契機になる。ただ、解散の意義など大局的な争点の報道が物足りなかった。

鎌田委員 各選挙区の動きや候補者の考えを伝えることは、もちろんだが、われわれが直面している課題の視点を切り込んで、記事を書くべきだ。特に人手不足、働き方改革、奨学金問題を取り上げていた「争点」に必要ではないか。

内山委員 有権者が一番知りたい情報は候補者の考え方。イデオロギ―がどういったものか。現状の政策をどう考えているのか。本人が書いているのだから、中層に書いておけばいいという部分があるかもしれない。時間が取れないかもしれないが、突然のインタビューは本音がでやすいという。可能な限り本人に直接質問を投げ掛ける取材手法を取り、候補者の本音や人となりを引き出してほ

しい。伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

鎌田委員 静岡県内は8選挙区あり、自分の選挙区の候補者をきちんと分析して、分りやすく伝えてくれる記事は選挙への参加意識を高める。今回は特に希望の党が目玉を浴び、いろいろ選挙の動きは関心が高い。新聞の果たす役割を大きく感じた。また、選挙権が18歳から付与されることもあり、若い世代が選挙に対して関心を持ち、世帯が選挙に対して関心を持ち、表現の工夫などを期待したい。

伊東委員 選挙期間中だけでなく、当選後の候補者が具体的に何をしたいかを追いつけてほしい。選挙報道で地域課題が整理された。1年、2年と経過したとき、解決に向けて進捗はあったのか。候補者は国会の中でどのような活動をしたのか。また、散発的に掲載しても読者は関心を持たない。何らかの見える工夫をした上で、経常的に情報提供をしてほしい。

編集局から

■県製茶指導取締条例廃止方針を巡る報道 県製茶指導取締条例の廃止方針は、県と茶業界のごく一部で決められたとみられる。県が方針を表明した時点で条例の総括や将来を見据えた振興策に関する協議はなく、県民議論の喚起につながる報道に努めてきた。

緑茶への着色発色を規制する条例が廃止されれば、低品質の茶にうまみ成分を加えて味を調えた「添加茶」が出回る可能性があり、そのことに抵抗感を抱く県民は多い。一方、本県茶業は茶価低迷に加え、担い手不足など多くの課題を抱えて先細りの状況。振興につながる規制緩和の議論が欠かせない。

委員からは、パブリックコメント以外の声に耳を傾けるよう助言があった。さまざまな立場を網羅するのが取材のスタンス。議論喚起は地元紙の重要な役割であり、今後も読者に判断材料を提供する姿勢で取材を進めていく。

■衆院選報道 本社と総局・支局、東京編集局が連携し、目まぐるしく変わる各選挙区の構図をストレートニュースや連載で報じた。争点が多岐にわたる選挙戦だからこそ、茶業振興や環境富士山連携など1～8区の地域課題を丁寧に取り上げた。働き方改革や奨学金問題など、全国的な課題も地域に落とし込んで検証した。一部の企画では、アンケートで候補者の見解を尋ねた。定番の手法だが、候補者の本音をより掘り下げる取材手法を考えていく必要も感じている。

地域課題は各記者が日ごろの取材網を生かし、地道な取材を続けているからこそ設定、検証できる。ミクロ的な報道にとどまらず、地方紙ならではの観点から選挙の意義、背景などにも迫りたい。

■「週刊YOMO」と静岡 紙面刷新では、デザインに一層力を入れ、それぞれのニュースや読み物を枠で囲みコーナー化し、読み飽きないレイアウトを心掛けた。フロント面はニュースを印象的な写真で取り上げて見やすく紹介し、県内原稿も多く掲載している。デザイン加工と原稿に読み仮名を振る作業に日数が掛かるため、生ニュースを届けるのは難しいが、取材記者と協力し、できる限り新しいニュースを今後も取り上げたい。また、ニュースを分かりやすく解説しつつ、本紙への導入となるコーナーも考えていきたい。読者のはがきで寄せられる意見を参考に、反響の大きい英語コーナーや子どもががく新聞などは今後も継続・強化していく。

(整理部)



鎌田 裕子 委員

かまた・ゆうこ 聖隷浜松病院などで看護師として勤務後、聖隷福祉事業団で人材開発部長などを歴任。2017年1月から同事業団初の女性常務執行役員。浜松医科大学大学院修士課程修了。掛川市出身、浜松市在住。



内山 義郎 委員

うちやま・よしろう 1979年スルガ銀行入行。営業本部部長を経て2002年取締役、常務取締役などを経て16年6月から一般財団法人企業経営研究所理事長。明大経営学部卒。伊豆の国市出身、三島市在住。



伊東 幸宏 委員

いとう・ゆきひろ 1990年静岡大工学部助教授、同大情報学部教授、情報学部長を経て2010年から16年度末まで同大学長。17年度からフォトンパレーンター長。県教育委員。早大大学院修了。工学博士。東京都出身、浜松市在住。

安全安心な茶を手に入れられる環境が守られるか。その2点が最終的なゴールだろう。茶は産業として歴史がありブランド力もある。条例廃止にせよ存続にせよその後どういった強みを生かしてゴールに近づけるのかという視点を議論を引張ってほしい。

鎌田委員 私も静岡市出身であり、幼少からお茶が生活の中になじんでおり、お茶への思い入れは他の飲料に比べて深い。日常的な静岡茶がヨーロッパのワインのように厳しい規制で生産されていたことは私も初見であった。普段から飲用している静岡茶を文化や健康面といった視点などで「再発見」し、新たな価値を説き合いたい。新たな価値を説き合いたい。新たな価値を説き合いたい。

参加企画や視点面白い 本紙へ引き込む工夫を 写真多用し記事へ誘導

鎌田委員

伊東委員

内山委員

「週刊YOMO」と静岡 紙面刷新

読みやすさ、親しみやすさが増した。各紙面に枠が入り、パッと見て締まった印象もある。子どもたちから新聞を読む習慣は大切。YOMOと静岡新聞を手を取り、小学校高学年、中学生になった本紙を手に取り、本紙のニュースの解説文を掲載してほしい。

内山委員 写真が多く、ビジュアルから記事へ入る感じがよい。20、30代が見ているネットニュースは、写真を導入にして記事を読ませているが、YOMOと静岡もそのように読ませるビジュアルとなっていて、トランプ大統領など、テレビなどでよく目にする人物や、現在起きているニュースを取り上げた英語表現は子どもが覚えやすい。

鎌田委員 子どもたちの視点に立った着眼点が子どもの成長や新聞離れへの対策としてとても有効であると感じる。記事も漢字に振り仮名をつけてより広い年齢層が読めるような工夫もよい。また、子どもたちの参画型企画では身近にある「携帯電話が必要」など、子どもの意見を尊重して記されている記事は大人が読んで面白い。家庭において親子で、お互いにどう考えるのか対話を促す良い企画である。

伊東委員 インスタが増え